

交換留学生定期レポート（5月）

人間科学部人間科学科

武信瑞生

2023年も3分の1が終わり、タイは5ヶ月ほど続いた乾季を終え、バンコクにいる私は今暑季という一年で最も暑い時期を過ごしています。日中は毎日40℃ほどになり、夜でも冷房や扇風機で対策しないと寝ている間に汗だくになってしまうという毎日です。

そんな中、4月13日から4月15日タイはソンクラーンという祝日を迎えました。ソンクラーンはタイにおける旧正月です。ソンクラーンの3日間、タイ全土では「水祭り」といって、道行く人が水鉄砲や水の入ったバケツなどをもって、誰彼構わず水をかけあうという暑季にぴったりの祭りが行われます。この祭りには地元住民だけでなく、この水祭りを目的に来た観光客なども参加し、特に主要な観光地では大いに盛り上がっていました。

バックパッカーの聖地と呼ばれるカオサン通りの周辺の道路はすべて歩行者天国となっていて、水鉄砲を持った人たちが練り歩き、大人も子どもも関係なく無邪気に水をかけあっていました。しかもコロナの影響でここ数年開催されていなかったため、数年ぶりに開催された今年は外国人観光客も大勢見られました。

私が留学準備をしていた時、また出国した時などはまだ海外への渡航ということへの制約が強く、バンコクに来たばかりの時は外国人観光客の姿は多くはなかったです。日本人に至ってはほとんどいませんでした。しかし、8ヶ月くらい経って今回の水祭りではタイ人も日本人もその他の国の人たちもマスクなんてせずに、ただ楽しんでいました。自分も参加しながら、その光景を見られたことが幸せでしたし、明けない夜は無いよなあと思えました。

コロナによる制約があり、留学準備、渡航、授業、人的交流など、苦しい点は多くありましたが、少しずつ前進していく情勢を日本の外で見られたというのは、今回留学して良かったと思える点の一つです。



・水祭りの様子。
警察官も水鉄砲を携帯しているし、知らない人同士が水をかけあっているし、ただその無秩序が日本では体験できないことであり、面白かったです。

留学して良かったと思える点は様々ありますが、常日頃から自覚しているレベルでそのように思える点は、他国に目を向けることによってその国の良い部分・悪い部分を見つけられたということです。そしてその際、その国と比較するのはもちろん自分が生まれ育った日本です。そのため必然的に日本の良い部分・悪い部分にも目を向けられました。

留学する以前の私は漠然と日本の外というものに憧れを抱いていましたし、日本に対する愛国心を自覚しないでいました。しかし外に出てみると、日本のすばらしさが見えてきました。もちろんよくない点にも目を向けることとなりますが、愛国心を自覚しましたし、日本のために何か出来たらと思いました。こういった感情の芽生えが留学という経験を経たことによって、私の将来に良い影響を与えるといいなと思います。

東南アジアのタイという国を留学先に選んだから、ですが、もう一つ良かった点は、近隣諸国への渡航のハードルが低く、10ヶ月という限られた時間の中でタイ以外のアジア諸国も見て回るができたということです。行ってみないとわからないことはたくさんあります。単にメディアの中の世界の話ではなくて、実際に現地で自分の肌で異国に触れるという経験ができたことは私の財産となりました。

留学して悪かった点はありませんでした。頻繁に体調不良になりましたし、精神的につらいこともありましたが、日本では知り得なかった・体験することができなかつたものばかりで、そういう意味でとても充実した留學生活でした。

残り1ヶ月、暑さに耐えつつタイでの10ヶ月の生活を全うしようと思います。